



# ～交流から滞在、そして定住へ～

ちょこっと匹見を体験したい方は…

◇**農家民泊**…匹見町には、3軒の農家民泊があります。



みよし  
民泊「三四四」

《体験内容》  
ものづくり体験（布ぞうり、かご編みなど）、山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験など  
■宿泊および調理体験料 6,000円  
■益田市匹見町道川イ214  
Tel/Fax. 0856-58-0020



うつだに  
農家民泊「内谷とちの郷」

《体験内容》  
わさびの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体験（こんにやく、わさびの醤油漬けなど）、もちつきなど  
■宿泊および調理体験料 6,000円  
■益田市匹見町石谷イ561  
Tel/Fax. 0856-56-0589



なごばら  
農家民泊「長尾原のへや」

《体験内容》  
農作業体験（稲刈り、牛の世話など）、苔玉作り、農産加工品作り（漬け物、こんにやく、ようかん、ジャムなど）  
■宿泊および調理体験料 6,000円  
■益田市匹見町澄川イ789  
Tel/Fax. 0856-56-0471

◇**田舎体験・ボランティア**

### 【田舎体験】

匹見町では登山や雪山歩きなど、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。



わさび収穫体験

### 【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。



ブルーベリー摘み取り作業

もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

### 《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

### 《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

### 《使用料》

平成26年2月現在

施設区分	戸数(空き戸数)	使用料(月額)
単身用(1DK)	2(1)	8,100円
世帯用(3DK)	2(0)	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

### 《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。

(詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせ下さい。)



匹見への定住をお考えの方は…

◇**就業支援**

益田市外から移住し、農林水産業へ就業することを目的として産業体験を行う人に、「益田市農林水産業就業支援助成金」制度による支援策で、就業と定住を支援しています。

◇**住まい**

空き家や公営住宅をご紹介します。

### /// 空き家に関する各種事業 ///

#### 空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

#### 益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の2分の1以内(上限50万円)を空き家の購入者または入居者(UIターン者に限る)に補助します。ただし、経費の額が50万円以上であるものに限ります。

# おがえり

## 特集

- ◆ 人情豊かな地で子育てに、仕事に
- ◆ 交流から滞在、そして定住へ
  - 農家民泊
  - 田舎体験・ボランティア
  - 田舎暮らし体験施設
  - 就業支援・住まい
  - 空き家に関する各種事業

# 人情豊かな地で子育てに、仕事に

益田市匹見町に縁があり、移住した2家族を紹介する。  
人情豊かな匹見町で子育て、仕事に奮闘している。

5人の子宝に恵まれ、7年前に益田市匹見町へ住まいを移し、賑やかな家庭を築いている青江昌一さん(30)と麻由美さん(31)。高校時代に出会い、結婚。その後、益田市街で共働きの生活をしてきた。毎年のように子どもが産まれ、日中は保育所に預け、子どもが病気になるも麻由美さんの母親に面倒をみてもらっていた。「さすがに4人目が産まれたときは、子育てと仕事の両立に限界を感じ」、麻由美さんの故郷である匹見町に引越すことにした。

## 生きがいを見つけて

麻由美さんは、中学生の時の職場体験がきっかけで、「人の役に立てる介護職に」との夢を実現させ、移住後は町内の福祉施設で働いている。大変な仕事だが、「デイサービスによって、利用者の方の笑顔が増えた」「今までできなかったことができるとなった」とことなど



(左上から時計回りに) 青江麻由美さん、昌一さん、彩乃さん(11)、美咲季ちゃん(8)、鈴華ちゃん(5)、聖君(10)、来夢ちゃん(7)

を家族から聞くと、「生きがいにつながります」と目を輝かせる。昌一さんは隣町の美都町出身。当初は知人や友達もゼロで、不

## なごみ町

爽やかで屈託のない笑顔が印象的な村上剛さん(28)と裕子さん(27)。「二度も喧嘩したことがなく、常に一緒に行動する」おしどり夫婦だ。

結婚後、益田市街で生活していたが、剛さんの祖父、鶴美さん(78)が代表を務める中村ナメコ生産組合で「人手が足りんけん手伝ってほしい」という声を受け、4年前に匹見町へ移住した。コンビニが無く、雪が多く、



(左上から時計回りに) 村上剛さん、裕子さん、愛結ちゃん、鶴美さん、望愛ちゃん

## ゆったりとした時間の中で地域に支えられ仕事も子育ても趣味も全力投球

携帯電話がつながりにくい匹見町での生活。不安があったため、最初の1年は町の中心部に住宅を借りたが、「コンビニは無くても生活できるし、雪道にも慣れました」と裕子さん。剛さんも「車や人の多い益田は気ぜわしかった。匹見は時間がゆっくり流れるので、なんとええ」と

## 支え合う暮らし

2年目からは、中心部から26km離れた内谷地区の鶴美さんの自宅へ移り、一緒に暮らしている。

益田にいたときは知らない人ばかりで近所付き合いも希薄だった。それが匹見町では、鶴美さんの孫のお嫁さんということもあり、「知らない人からも声がかかり、野菜やおやつをもらったり親切にしてください」と裕子さん。「これもお爺さん(鶴美さん)のお陰です」と感謝している。

子どもにとっても、匹見町への移住は良い選択だったと実感する。昨春匹見小に入学した長女の愛結ちゃん(7)。足が不自由なため、「友達が荷物を持ってくれたりと、みんな親切で仲が良い。先生の目も行き届いていて、児童数は少ないけれど、はじめの心配もなく安心です」。

安よとまどいを感じていたが、「もともと静かなところが好き」だったため、今では匹見に溶け込み、匹見中学校で施設用務員として働いている。

「匹見小の先生は、授業が分からない児童に放課後に教えてくださったり、親が気づかないことを連絡帳で教えてくださる。子どもが5人もいると余裕がなく、手厚い対応が有難い」と感謝している。また「匹見保育所

## 5人の子宝に恵まれ大好きな匹見で大好きなことを実践

ろ、縁あって「匹見川源流道川そばうち同好会」に入会。それから程なく「道川春祭り」でいきなり、「実践」することに。「見よう見まねで、ひたすらそば粉をこね続けました」と苦笑い。今では細く切ったそばを褒められるほどに上達。そば打ち体験受け入れ時に指導をしたり、今冬の年越しそばは自ら腕をふるい、麻由美さんの実家にも届けた。

## 匹見に引越して良かった

「みんなが顔見知りで挨拶が行き交う匹見町が大好き」と言う麻由美さんは、「子どもが大きくなればなるほど、特に教育面で匹見に引越して良かった」

は積極的に地域交流をされ、年齢の違う子どもたちとも交流できるのが良い」と感じている。それぞれ性格が違い、毎日きょうだい喧嘩が絶えない子どもたち。「それでも、風呂洗いや食事の準備、下の子の面倒を見たりと、お互い協力し合っています。きょうだいがいないと喧嘩もできませんからね」と昌一さん。我が子には、「当たり前

長年一人暮らしだった鶴美さんも、「跡継ぎの孫家族が帰ってくれて本当に嬉しい」と喜び。少子高齢化が進む集落において、明るい話題となっている。

理事務をはじめ植菌、ナメコの摘み取り、荷造りを担う。「お互い言いたいことが言え、相談できるのは家族経営の良さ」と言う。

長年地域の発展に尽くしてきた鶴美さんは、毎晩食卓で水力発電や木質バイオマスについて熱く語る。孫家族の存在が、「若い世代や匹見のためになれば」との思いに弾みをつけている。

## 仕事に趣味に大忙し

剛さんと裕子さんは、剛さんの父、下森栄さん(56)が工場長を務める匹見なめこセンターで働く。剛さんは技術主任として、オガ粉の搬入や菌床の仕込み、工場内の清掃を、裕子さんは経

剛さんにとって、週1度の休日を楽しみてたまらない。栄さんの影響で釣りが大の趣味。特別な予定が入らない限り、風雪の中であろうと早朝に出かけ一日中海や川で釣り糸を垂らす。実は、漁師町で知られる萩市江崎出身の裕子さんも釣りが趣味。年に数回は、栄さん、剛さんと磯釣りに出かける。

「子育てが一段落する40代以降、夫婦2人で釣り三昧するのが夢です」。そう言って笑った。



裕子さんが磯釣りしたメジナとチヌ、イシダイ